



# 駒林小 学校便り

～2023年4月、駒林小学校は創立50周年を迎えます～

令和4年度  
9月号

## 感動の瞬間

学校長 西尾武泰

夏休みが明け、学校には活気のある子どもたちの元気な声が戻ってきました。まだまだ残暑が厳しいので、熱中症に気を付けることはもちろんですが、これまで通り新型コロナウイルス感染症予防をしながら注意深く活動の再開をします。

夏休み中に学校では樹木の剪定を行いました。本校は駒林の校名にふさわしく、開校当初からたくさんの樹木が植えられていてとても環境がよい学校です。ただ、7月に本校の職員が校庭にいつも以上に木の枝が地面に落ちていることが気になり、樹木をよく見たところ、立ち枯れしている枝がたくさんありました。一見元気そうに見える樹木でも、50年以上経っているので一部の枝は枯れてしまっている木もあり、それが風や雨などの影響で枝ごと落下することも心配されたので、今回少し強めの剪定をしました。駒林の樹木がこの先の50年も元気に育ってくれることを願っています。

さて、私のように教師ではなく他業種に就いた同じ年代の友人たちと久々に会う機会がありました。管理職になった友人もいて、それぞれの分野で責任ある立場にあり、話を聞いていると皆大変そうです。そのような友人たちが最近の学校教育について私に質問をしてきました。

「最近の学校は大変だね。ニュースなどでも報道されていることって本当なの？」「自分たちが小学生のころとずいぶん変わったけど、大丈夫なの？」などなど、皆、興味津々に聞いてきます。そのような質問をされたので、私は次のように答えました。

「昔に比べて確かに変わったところも多いけど、私にとって教師という仕事の醍醐味は全く変わっていないと思いますよ。それは感動の瞬間に一番近くで立ち会えるということです。子どもが何かができるようになった時、例えば、かけ算九九が言えるようになった時、とび箱が跳べるようになった時、漢字テストで100点が取れたとき、そのような時に子どもは純粋に『できた。』と言ってとても喜びます。その成長の瞬間には必ず感動があり、そこには笑顔があります。周りの友達からも『おめでとう。』と言われることもあり、とても幸せな空気に包まれます。そのような瞬間に一番近くで立ち会えるのが昔から変わらない教師としての醍醐味だと私は思いますよ。」と伝えるとその話を聞いていた友人たちも「なるほどなあ。いい話だなあ。」と皆笑顔になって頷いていました。子どもの成長の話は、どの人も笑顔にする力があるのです。

夏休み中に行われた西町会主催の納涼屋外映画会と打ち上げ花火。私は本校の屋上から花火を見ていましたが、こちらも「コロナ禍に負けずに開催することが出来た。」と皆の気持ちが花火に込められているようで、その迫力にとっても感動しました。

これからも「出来た。」という感動が学校の中で一つでも多く出来るように教職員で頑張っていきますので、本校へのご協力ご支援をよろしくお願いいたします。